

議 事 録

会 議 名	第8期第2回寒川町まちづくり推進会議		
開 催 日 時	令和4年10月14日(金) 午後3時～午後5時		
開 催 場 所	東分庁舎2階 第1、2会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>○出席委員</p> <p>中島委員、橋口委員（副会長）、星委員 小菅委員、相田委員、金子（巖）委員 吉田委員、金子（洋）委員、庭野委員 織田委員、杉下委員（会長）、安田委員</p> <p>○欠席委員</p> <p>山下委員、金子（一）委員、小泉委員</p> <p>○欠員</p> <p>町教育委員会委員</p> <p>○事務局</p> <p>戸村町民部長、岡野町民協働課長、栢沼主査、清田主事</p> <p>○傍聴者数</p> <p>2名</p>		
議 題	<p>(1) 協働の見える化「シンボルマークの作成」について（資料2、4）</p> <p>(2) 公募委員サロンの開催について（資料3、4）</p>		
決 定 事 項	<p>1 議事録承認委員：橋口委員、星委員</p> <p>2 シンボルマークの選考委員は、まちづくり推進会議委員が務める。</p> <p>3 会議中は、委員、事務局関係なく、「さん」付けで呼び合う。</p> <p>4 事務局は、会議資料のページ数を付番する</p> <p>5 事前に正副会長と事務局で確認し、会議で議論する内容や、決定すべき内容を示す。</p> <p>6 指定管理者選定委員会委員への推薦委員：杉下会長</p> <p>7 次回会議は、12月22日(木)午後3時からとする。</p>		
公開又は非公開の別	公 開	非公開の場合 その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱状交付（資料1）</p> <p>3. 町長あいさつ</p>		

4. 議事録承認委員の選出(資料1)

【事務局】 次第の4、議事録承認委員の選出に移ります。まちづくり推進会議では、原則、公開、傍聴が可能であり、会議終了後には、議事録を作成いたします。議事録には発言者の氏名を含め、議事の内容などをまとめ、寒川町審議会等の会議の公開に関する規則第8条第2項に基づき、会議ごとに指名される議事録承認委員に確認を取った後、ホームページなどで公開させていただきます。これまで、まちづくり推進会議では、資料1 委員名簿の上から順に、出席委員の中から議事録承認委員を指名しております。つきましては、今回の議事録承認委員として、委員名簿の3番橋口委員と、4番星委員を指名することに異議ございませんでしょうか。

(各委員、「異議なし」の声あり)

【事務局】 それでは、橋口委員、星委員、よろしく願いいたします。

(橋口委員、星委員、承諾)

【事務局】 ありがとうございます。本日の会議の議事録承認委員は、橋口委員と星委員に決定させていただきます。それでは、以降の議事、進行につきましては、寒川町まちづくり推進会議規則第4条の規定に基づき、杉下会長に進行をお願いしたいと思います。次第5の会長のごあいさつからよろしくお願いいたします。

5. 会長あいさつ

【杉下会長】 皆様、こんにちは。会長の杉下でございます。第8期は今日で2回目ですが、直接お会いするのは初めてなので、改めましてという感じでございますが、微力ながら、会長職を仰せつかりましたので、約2年間、円滑な議事進行に努めたいと思いますので、皆様のご協力を賜れればと思っております。私も、気が付けば、これで4期目の関わりになってまいります。進行に関してはある程度慣れていると思いますが、皆様の多様なご意見があつて初めて、良い会議ができていくと思いますので、忌憚ないご意見を賜れればと思っております。限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。この後は着座にて進めさせていただきたいと思っております。早速ですが、議題に入る前に、第1回会議がオンライン開催だったということで、改めて一言ずつ自己紹介をしていただければと思っております。事務局をやっている方のお名前と顔も覚えていただければと思っておりますので、橋口副会長からよろしくお願い申し上げます。

(各委員、自己紹介)

【杉下会長】ありがとうございました。今日、お休みの方も何名かいらっしゃいますが、約2年間、この仲間と一緒に寒川町を盛り上げるために、いろいろな建設的な意見を出していただければと思います。ありがとうございました。それでは、早速、議題に入らせていただきたいと思います。次第に沿いまして、進めさせていただきます。まず(1)協働の見える化「シンボルマークの作成」について、事務局からご説明をお願いいたします。

6. 議題

(1) 協働の見える化「シンボルマークの作成」について

(資料2、4)

【事務局】-資料2、4に沿って説明-

【杉下会長】ありがとうございました。事務局よりご説明がありましたシンボルマークの作成について、何かご意見、ご質問ございましたら、よろしくをお願いいたします。小菅委員。

【小菅委員】シンボルマーク作成のスケジュールで、最終的にデザインを決定して、サンプルというのか、ひな形というのか、プロトタイプを作るのはいつなのか。

【杉下会長】事務局、お願いします。

【事務局】令和5年9月の審査会で選考し、9月、11月で決めていただければと思っております。そこから、例えば手書きのものであれば、町のデザイナーにデザインを作ってもらい、令和6年5月にできたものを町長へ報告というのをイメージしております。

【小菅委員】令和5年第9回の推進会議で、町長に「こういうのはどうですか」という提案をするのですか。

【事務局】はい。小学生や大人の方、いろんな方が応募した作品を選んでいただきたいと思います。この令和5年9月の審査会で、その段階では手書きの状態かもしれないので、デザインとして確定したものを、令和5年11月にデザイン化し、推進会議の皆さまに確認していただいたら、最終的に令和6年5月に町長に報告していきたいと考えています。

【小菅委員】令和6年5月にはもう最終案。

【事務局】はい、確定したものを考えております。

【小菅委員】はい。ありがとうございました。

【杉下会長】ありがとうございます。ほかにご意見やご質問ございましたらお願いをいたします。安田委員、お願いします。

【安田委員】質問なんですけど、これは誰でもよろしいのでしょうか。

【事務局】その点につきましても、皆様で話し合っただけであればと思います。公募する、公募しない、というのも、皆様で話し合っただけの方がよろしいと思いますし、対象者につきましても、町民だけなのか、全国的に募集するかなど、いろいろなご意見があると思うので、皆様で話し合っただけだと考えております。

【安田委員】かしこまりました。うちの大学にもデザインが好きな学生さんがいますが、必ずしも寒川出身ではないので、そういう人もいいのか、ということをお聞きしたかったです。

【杉下会長】そうですね。まず、募集の対象はどこまでにするかということで、安田委員からお話があったように、寒川に限定せず、ホームページなどで告知をすれば、理論上は世界中から応募ができる。私もいろんな地域で、こういう選定委員会に関わらせていただいた中で、他市でオープンに募集した時には、その町を知るためにと、応募する方がわざわざその町に来て、いろいろ回って見たと。そうすることで、ネット上だけでは分からない魅力が感じられて、それを作品という形にして応募していただいたこともある。ですから、「寒川って何だろう」と関心を持って、それがきっかけで来てもらい、さらに違った寒川の魅力を感じてもらって。逆にこういう時は、よそ者、ばか者、若者というのがあると、よく形が動く。やっぱりよそ者、客観的にそこを見る。若者、JCのような、私もJC OBですけど、そういうところで経験してきた、そういう活動をする若者。ばか者というのは、いい意味で、本当に。今日のこの会議体というのも「こんなことを言ったら笑われちゃうのではないか」「こんなこと言ったら変かな」ということではなく、それが実は新しい一歩であることもあるので。そういういい意味で、若者、ばか者、よそ者がいい意味でそろった推進会議だと思いますので、本当に屈託のないご意見やご質問を出していただくのが、寒川の発展にもつながると思います。そういう意味では、戻ってしまうのですが、オープンな形でやることによって、住まれている方ももう一度寒川を見直してみるという、先ほど自己紹介で、中島委員のおっしゃっていたようなことがあったり、寒川に関心のある方、逆に関心ない方が、気になる、気にするきっかけにもなると思うので、今回募集対象に関してはオープンな形でやったらどうかなというご意見が、安田先生のご意見に私がかぶせてしまった感じですけども。ほかにも何かこれに関してご意見、ご質問ございましたらお願いします。織田委員。

【織田委員】質問です。ロゴのアイデアを募ることが1つの目的ですよ。それと、協働が何なのかを知ってもらって、広めるというのが2つ目。理由として、2つだと思う。アイデアは勝手に集まってくるような仕組みだと思うのですが、具体的に協働というものを知ってもらいたいと思う、例えば年齢層だとか、何か具体的な狙いはあるのでしょうか。

【事務局】小さなお子様からご年配の方まで、皆さんにということでもありますので、ここだけということではないです。

【織田委員】ありがとうございます。具体的に、この「協働」というロゴがもし決まって、そのロゴが例えばどこで使われるのか。協働を僕は知っているのですが、そのロゴがこういうのに決まりました、というのはありだと思うのですが、具体的にどういうところに掲示されるのか。そもそも「協働」と漢字で書いていると、幼稚園の子とか分からない、そもそも協働とは何なのかとか。今、蕨市のサイトで、蕨市シンボルマークを検索しても、協働のシンボルマークは、決定しましたという決定事項のところ以外であまり使われている事例はなかったので、その後の活用はどうするのか、もっと具体的に提示できるのかなという感じがしました。

【事務局】ありがとうございます。蕨市では、複数のシンボルマークが作られており、いろいろなことに使っています。このシンボルマークではないですが、バッジを作っていたり、観光に使われていたり、販売されているものもあったかと思います。こちらでイメージしていましたが、町の協働事業提案制度という制度を活用して、スイセンの植栽をやっていただいているボランティア団体の方がいらっしやまして、今、さむかわ中央公園に植えていただいております。今年の春にも、スイセンが咲くので、そこにシンボルマークとともに「こういう団体が協働事業でつくられた花壇です」と添えることで、公園に来た方に、PRできないかというような思いがあります。別の団体さんですと、音楽を活用したオレンジカフェという、ご年配の方の認知症予防の関係でウクレレを使った事業など、協働事業提案制度を活用した事例がいろいろあります。ですので、例えばポスターなどにロゴマークを使っただけでしたら、町の協働事業でやっているものだと一目で分かり、お子様にも分かるようなものであれば、字が読めなくても、みんなで行っているんだと分かる。そのようなものが作れたらいいのではないかと考え、提案をしました。

【織田委員】ありがとうございます。

【杉下会長】私から補足をさせていただきます。今、ロゴマークを作るところで、新しい考え方が出てきています。ユニバーサルデザインという視点から、先ほど織田委員が言われた「誰を対象にするんだ」というのは大変大事なポイントで、今までターゲットを絞り過ぎて、一部にしか分からないロゴマークがありました。ユニバーサルデザインというのは、老若男女、国籍問わない。安田先生が自己紹介でおっしゃったように、多摩大学の学生さんが、海外の方も寒川に遊びに来やすいように、観光協会の英語のホームページを作ってくださっている。ロゴマークを作ることによって、寒川でいろんな協働事業があるんだというのが分かりやすい。例えば飛躍するかもしれませんが、皆さん、東京五輪の時に、各競技の絵を見ただけで、どういう競技か分かるピクトグラムがあったと思います。事務局がおっしゃったように、スイセンの例だと、「こんなすばらしい事業、単独でやっているのか。いや、いろんな地域の行政や地域の方、事業者、学生さん、いろんな方が一緒に、手を取り合ってやっているから、こんな事業ができていくんだ」というのが、看板やイベントチラシをぱっと見た時に伝わるように。織田委員が言ったように、協働というのはなかなか難しい言葉で分かりにくい。大体、ラックにあるチラシは、上4分の1ぐらいしか見えないので、そこにロゴマークが見えるようにしておき、何回もマークを見ることで、「これは協働で、みんなで一緒に知恵を出して、手を取り合って、いい事業を作っているんだな」と分かりやすくなる。楽しそうだなと思って、そのチラシを取ってもらおう。やっぱり取ってもらわなければ、イベントがあるということも伝わらないと思うのです。ロゴマークを作って、すぐに効果を出すのは難しいとは思いますが、ユニバーサルデザインという視点で、老若男女、国籍問わず、多くの方々が、このマークがついている取り組みは楽しい、すばらしい、寒川がにぎやかになるイベントや事業なのかな、と思えるきっかけになればという視点で、1つのたたき台として、蕨市の事例を今回ご紹介いただきました。ですから、蕨市のやり方を参考に、寒川は寒川バージョンとしてやっていくのも必要なのかなと思います。

あと、この流れでちょっと私のほうから1つ皆様にお諮りできればと思うのですが、蕨市では、最優秀の方に1万円のクオカードを贈呈されました。何か副賞があると、やる気につながると思うのですが、クオカードというのは個人的には味気ないと思っていて、寒川町の共通商品券があるが、事前に聞いたら、予算化するのも通るか通らないかということもあるようで。協働というのは何かというと、町だけで全部予算化して共通商品券を出すのではなく、町民や事業者、学生さんなど、いろんな人が関わって、みんなで知恵を出して、いろいろ出し合って作り上げる。ならば、私の経験則なのですが、地域の事業者さんから何かちょっと出してもらおう。そうすると、例えば5社集まったら5つの商品がある。そうすると、町の魅力セットみたいなものができ、寒川に関わりがない方が受賞すると、「寒川に

こんな食べ物があるんだ」「遊ぶ所があるんだ」「こんな体験ができるんだ」と、1日それを使うことで、満喫セットみたいなことで楽しめる。一方で、町民の方も、長く住んでいるのに知らなかった、というのを知る機会になる。今日、せっかく金子洋一委員さんがいらっしゃり、寒川のボウリング場の経営をされておりますので、そこのゲーム無料券を出していただくとか、勝手に言ってごめんなさい。例として捉えてください。このように、いろんなところから出してもらうと、寒川の満喫セットや魅力セットになり、いろんなものを知る機会になり、さらに寒川を好きになるかなと思います。地域でいろいろ活動され、活躍されている皆様ですので、そういうつながりで、少しお声がけをいただいて、ちょっとずつ出してもらうだけでも、かなりボリュームのある魅力的なものを副賞としてご提供できるのかなと思います。一方的に私がしゃべってしまって申し訳ないのですが、そういうのも踏まえて、ほかのことに関してでも、何かご質問、ご意見ありましたらお願いします。金子（洋）委員、お願いいたします。

【金子（洋）委員】もちろん、そういうことに協力できる事業者さんはすごく多いと思うので、私はそういうところを募ることに何の異議もなく、やって損はないかなと思います。あと、この目的なのですが、寒川町も蔵市と同じような形の目的で、シンボルマークを作成するという理解でよろしいでしょうか。

【杉下会長】事務局、お願いします。

【事務局】町側といたしましても、シンボルマークを作ることによって協働の理解を深めていきたいと思っておりますので、目的に入れていただきたいと考えております。お願いいたします。

【杉下会長】相田委員、お願いします。

【相田委員】シンボルマークですけど、「『高座』のころ。」のマークは、あまり浸透していないから、いいロゴマークを作って、それでアピールした方が、私は皆さんで考えてやってもらった方がいいと思う。「『高座』のころ。」のマークを車に貼っていると、ほかの地区の人に「『高座』のころ。のマーク、いいね」「格好いいね」と言われて、「ステッカーある？」と言われる。だけど、この「『高座』のころ。」、何のために作ったのかなと、私はそう思う。だから、協働のまちづくりで、いいロゴを作って寒川町をアピールした方が私はいいと思う。

【杉下会長】事務局、お願いします。

【事務局】ありがとうございます。「『高座』のころ。」のマークを作成いたしました。今お話を伺ったところによると、浸透していないというご意見をいただきました。町といたしましては、町発行の文書、ホームページ、発行物には必ずマークを入れており、またコミュニティバスのバス停やラッピングされたバス、郵便ポストなど、いろいろ作られてはいるのですが、まだまだ周知が不足しているのかなど、今のお言葉で実感いたしました。今回、協働のマークを作るにあたって、相田委員おっしゃったとおり、このマークに負けないぐらい、浸透できたらと考えておりますので、皆様のお力を借りて作っていきたいと思います。

【杉下会長】ありがとうございます。ほかに何かご意見、ご質問ございますでしょうか。あと1点確認で、こちらは募集をかけて、最終的に選考するわけですね。この選考委員というのは新たに設けるわけではなく、ここの推進会議のメンバーがそのまま選考委員を兼ねて決定していくという流れでよろしいですか。事務局、お願いします。

【事務局】蕨市さんの要項では、選考委員を新たに設ける形になっているのですが、町側といたしましては、せっかく皆様お集まりいただいているので、皆様の中で選考していただきたいと考えております。蕨市の募集要項の形を基に、皆様のご意見をいただけたらと思っております。今の選考委員の部分につきましては、皆様からご意見をいただきたいと考えております。

【杉下会長】今から、目的や内容などを作り上げていくので、そのプロセスが一番見えている方々が、最終的にご判断していただく方がいいと思うので、選考委員はこの推進会議のメンバーをそのまま充てて、最終的に皆さんで判断し、マークを選考させていただきたいと思っております。これに関してはご了解いただけますか。よろしいですか。

(各委員、「異議なし」の声あり)

【杉下会長】ありがとうございます。その点は、今日確定ということで。我々が選考委員になるわけですから、今後は、いいものを選ぶためのご意見、ご質問というのをを出していただければ、そんな視点でお願いしたいと思っております。何かほかにありましたらお願いをしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(各委員、挙手無し)

【杉下会長】次回12月の会議でも、継続して審議する予定でございますので、今日は一旦ここで閉じさせていただき、次回会議でご意見、ご質問、ご提案いただければと思います。では、一度ここで議題の(1)は閉じさせていただきたいと思います。後で気が付いたことがあれば、振り返りでまたご発言いただければと思います。とりあえず、議事は進めさせていただきたいと思います。続きまして、(2)の公募委員サロンの開催について、資料3、4に移ります。まず事務局からご説明をお願いいたします。

(2)公募委員サロンの開催について(資料3、4)

【事務局】-資料2、4に沿って説明-

【杉下会長】ありがとうございます。事務局よりご説明がありました公募委員サロンについて、何かご意見、ご質問ございましたらお願いします。中島委員、お願いいたします。

【中島委員】質問です。寒川町で今いろいろな会議を持たれていると思うのですが、実際に公募委員は全体で何名ぐらいいらっしゃるものなのでしょうか。

【杉下会長】事務局、お願いします。

【事務局】現在、41名の公募委員の方が活躍しております。以前は30数名でしたので、若干増えてはおります。ただ、やはりどこの審議会でも公募委員さんの枠が埋まらなかったり、何度も再募集をかけたりと、公募委員さんを増やすことに苦慮しているというのが実情ですので、こういったサロンをきっかけに、こんなに簡単に楽しく参加できるんだと周知ができればと考えています。以上です。

【杉下会長】ほかにございますでしょうか。吉田委員、お願いいたします。

【吉田委員】開催までの流れのところ、実際にサロンを開催していく上で、まちづくり推進会議の中で、メインファシリテーターや各テーブルのファシリテーターを一から決め、公募を募り、進めていくというところ、結構時間がかかってくると思う。そのあたりは、どのような流れで進めていかれるのですか。

【杉下会長】事務局、お願いします。

【事務局】少し説明が不足していたら申し訳ないです。今回の公募委員サロンですが、現在、公募委員を務めていらっしゃる委員さんにこのサロンにご参加いただきます。ですので、新たに誰かに公募をかけるのではなく、現在公募委員を担っている、中島委員や小菅委員のような方々にお集まりいただいて、「こちらの審議会ではこういう話をしています」「その会議の名前は、初めて聞いたけど、どんなことをやっているんですか」といったような、そういう横のつながりを作っていくことで、例えば今度は星委員が、「そちらの会議の方が楽しそうだから、今度はそちらの公募委員に応募してみようかしら」とか、そういったつながりを作っていく、どんどん広めていく、そういったことを目指しています。ですので、新たな公募は今の段階では、町としては考えていません。

そして、ファシリテーターにつきましては、せっかく推進会議の皆様集まっていますので、公募委員の声を聞きながら、皆様にも知っていただくきっかけになると思うので、ぜひファシリテーターとしてご参加いただきたいと考えております。

【杉下会長】よろしいでしょうか。

(吉田委員、肯定)

【杉下会長】ほかにございますか。小菅委員、お願いいたします。

【小菅委員】今、公募委員が現時点で41名いらっしゃるということなんですが、会議体そのものは幾つあるのですか。目的としては、いわゆる公募委員として参加している会議体の中での悩み事や苦労話、こうしたらいんじゃないかとか、そういった意見交換や情報交換をしたいということなのでしょうか。

【杉下会長】事務局、お願いします。

【事務局】審議会の総機関数は、令和3年度時点で43でございます。公募委員の数が41名ですので、募集しているにもかかわらず集まっていない審議会があるということが実態です。ましてや、まちづくり推進会議では5名の公募委員の方にご活躍いただいております。ですので、恐らく43引く41ではなく、もっと多くの審議会で、現在公募委員が不足している状況が発生してしまっております。そのため、公募委員サロンという形で、まずは横のつながりを作っていただき、さらには審議会にご近所の方にお声がけをいただいたりして、公募委員を増やしていけたらと考えています。

また、ご相談やお悩みの共有の場としても考えております。例えば、「まちづくり推進会議に参加してみたけど、難しかった

た」みたいなお話をもちろんしていただいても構わないと思っております。逆に、まちづくりについて考えてみたいという方もいらっしゃるかもしれないので、もちろん、悩みやご相談だけでなく、それもありだと考えています。

【杉下会長】 よろしいでしょうか。

【小菅委員】 分かりました。

【杉下会長】 補足ですが、前期である第7期で、まさに公募委員が埋まらないので、今後どうやって埋めていこうかという議論をさせていただいた中で、今日、冒頭の町長のご挨拶にもありました、「いまここマップ」というものを作成させていただきました。我々、こういう推進会議や審議会に入ると、大体、約2年間、1つの議論についてやっていくのですが、そうすると、どのタイミングでどういう発言をしていった方がいいのか。例えば、シンボルマークについても、今日、第2回、第3回、第4回目までにフィックスしなくちゃいけないというところで、ある程度決まった時にもう一回、目的は何だとかいうと、もう一回振出しに戻ってしまうので、やっぱり2年間の時系列の中で、どのタイミングでどういうご意見をいただいて、どういうふうにまとめていかななくてはいけないのか、というのがあられるわけです。というところで、せっかく公募委員になったのに、いろんな意見を言っても、全然形にならない、でも町側が吸い上げないんじゃないかと、このタイミングだから吸い上げられないというところもある。ですから、いまここマップも、サロン当日の参考資料としてご活用いただきながらやることで、公募委員が「このタイミングだったからうまくいったんだ」「このタイミングだからうまくいかなかったんだ」と分かると思います。過去には、実際に公募委員を務めて、いろんな知識や経験がある方だったのに、時系列が分かっていたから、あと一年やれたのにお辞めになってしまった、ということもあるのです。これも、応募状況が悪くなってきている1つの背景です。

それと、コロナ禍で、なかなか前期の第7期ではできなかったのですが、このまちづくり推進会議のちょっと変わった慣例がありまして、何回かメンバーで懇親会をする。大体第1回会議が終わると、まずは懇親を深めましょうということで懇親会をやって、途中で1回ぐらい忘年会とかをやって、終わりになるとまた懇親会をやっていきます。強制じゃなく任意なので、そういうところでぎくばらんに意見交換することで、さらに自己紹介だけでは分からない、お互いの顔を知ることができます。そういうのもやっていきたい。いろんなご縁で、地域のそれぞれ活躍している方々が一緒に知恵を出してやる大切な会議体ですので、それをもうワンステップ、ツーステップ上げるためには、よりどういうふうにした方がいいのか話すことができ、公募委員がもっと集まりやすくなります。結果として、寒川町がもっと輝き、楽しい町になります、ということです。そういう

ために、まずは、公募委員を経験されている方々が、まずはざっくばらんに意見を出し合って、どういうふうにした方がいいのかというのを、まずはある程度、形にしていきたい。それを今後、公募委員を募集するタイミングで、良いも悪いも正直に、メリット、デメリットもお示ししながら、また新たに公募をやると、より多くいい人材が、今回の推進会議のような、精鋭の公募委員たちが集まるような機会にもなっていくと思います。京都の事例を参考に、今回お示しさせていただき、できればまずは、5月に開催させていただいて、それを踏まえてこの会議体で検証し、今後続ける場合にはどうした方がいいのか、精査していければと思っております。そういうところで、今回のご提案とご理解いただければよろしいかと思っております。急に振っちゃうのですが、星委員、せっかく今回公募委員で入られたんですが、こういう公募サロンをやってみようかなという、初めてのご提案なのですが、何か感じたこととかあれば、ご意見いただければと思います。

【星委員】公募委員について、多分広報とかにも出ているのでしょうけど、大体、私には関係ないと思って飛ばして、今回、初めて参加して、こんな感じなんだなというのが分かった。ほかの公募委員の方もそれぞれいらっしゃるのかもしれませんが、もしほかの方とも知り合えて、もしそこに知っている人がいたら、それだけで随分身近に感じられるんじゃないかなと思いますし、そういうのをやることはいいことだと思います。また、委員をやっているということもあまり、近所の人に言わないので、みんなで集まれば、それでまた話も広がっていくんじゃないかなと思います。

【杉下会長】ありがとうございます。そういう素朴な発言って大切です。やっぱり知っている人がいると話しやすいのがあります。公募委員サロンで、「あの人公募委員やっていたんだ」となると、またそういうところでおつながりができたり、苦労話や楽しい話が出てくることで、近所のお付き合いが新たに生まれたりとか、点が線になって面になるきっかけにもなるかと思えます。特に公募委員というのは、やっぱり寒川が大好きであり、寒川をもっとすてきな町にしたいなど、いろんな思いがあって自ら手を挙げて応募されている方々です。だから、手法は違ってても、寒川を良くするというゴールは同じなんです。だから、いろんな手法があると知る機会にもなり、日々の自分自身の生活や仕事にフィードバックできるものも出てくると感じます。あと、今回副会長になられた橋口委員も公募委員枠という形で入っているので、何かあれば、感想的なことでも、願います。

【橋口副会長】最近、コロナで、飲みニケーションという言葉が聞かなくなっていて、少しずつそういうのもいいのかなと思うので、懇親会で委員同士、皆さんが打ち解けて、お互いを知れば言えることってあると思うので、やっぱり皆さん、まだちょっとぎくしゃくというか、硬いところがあるので、可能であればそういう懇親会も1回ぐらいやってみればいいのかなと思っています。

【杉下会長】ありがとうございます。何かほかに、ご意見、ご質問あればお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

【織田委員】1点いいですか。

【杉下会長】織田委員、お願いいたします。

【織田委員】この公募委員に限らず、町の組織自体、いろんな組織、団体で、入ってほしいけど、入ってこないみたいなことはたくさんあると思うんです。これは我々、青年会議所も例外ではなく、募集したくても、年々少しずつ少なくなってきていると実感しているところです。何をしているのかが見えないというのが1つ問題としてあると思っています。いまだに、我々青年会議所でいうと、諸先輩方に築いていただいた、いつも飲んでいたりとか、あとは、面白くなさそうな会議ばかりやって忙しそう、のようなイメージがどうしてもぬぐい切れないというのも、よく聞く話であります。ネット上でいろいろ調べていても、そういうワードで引っかかったりするので、そういうことなんだろうなと感じています。実際には、コロナの影響もあって、月に1回程度、懇親会があるかないかくらいです。それこそお酒を飲める若者も少なくなってきたりといった事情もあるのですけど。今こうしている会議の風景や、冒頭で町長が来てくださり、お話ししてくれる風景などの実情を、映像でどんどん公開することも、これから人を集めるために必要なスキルなのだと感じます。

【杉下会長】ありがとうございます。映像、いいですね。吉田委員、お願いいたします。

【吉田委員】今、織田委員がすばらしいことを言って、映像で公開するところ、今、タウンニュースなど、アピールする場がすごく多くなっていると思うので、ぜひタウンニュースだったり、広報紙などで「今のように会議がされているんだよ。なので、これから公募委員をさらに募りますよ」というところがあれば、さらに周知できるのではないのかなと思いますので、ぜひいろんなことをされた方がいいなと、私も思いました。

【杉下会長】ありがとうございます。ちょっと余談ですが、先ほど織田委員の言った、飲んでばかりというイメージを作ったのは私たちなのかなと、OBとして耳が痛い。決してそういう団体じゃございませんので。でも、それはすごく核心をついていて、審議会という名前だけで、一歩引いてしまう方も多い。「じゃあ、どういう人たちがやっているんですか」「いろんな人が入っていますよ」と言われても、例えば、今回の推進会議の委員名簿を見ると、多摩大学副学長のような偉い方が入っている。じゃあ、私なんて、俺なんて、行ったらばかにされちゃうんじゃないか。言葉が不適切かもしれない。そんな見識の高い方々と一緒に、議論は出せないよということで二の足を踏んでしまう人がいる。でも、実際に入ってみると、いやいや、そんなことないよということで、素朴な意見が新たなヒントとなり、次の一步になり、いい意味で和気あいあいとやっている会議体も、結構多いわけです。ですから、さっき織田委員が言ったように、書面の議事録だけだと硬いが、映像で見ると、意外にざっくばらんにしゃべっており、肩ひじを張らずに参加しても大丈夫なんだと伝わったり。あとは、先ほど吉田委員が言ったように、タウンニュースを使うのも、予算や制限などあるかもしれないですが、違った発信が新たにできると思います。今回の公募サロンをきっかけに、会議にいい意味で気軽に参加でき、さらに参加することが自分の町を良くすることにもつながってくるわけです。こう言うと変ですが、安田副学長という肩書でもざっくばらんにお話を。まだ実質2回目なのですが、私も大変昔からお世話になって、宣伝をするつもりはないのですが、近々行われるセミナーには、私も出席させていただく予定で、過去にも何回も勉強させていただいています。大学で、寺島学長が来ると、難しいのかなと感じますが、実際に行くと、分かりやすくご説明いただいています。だから、我々がいけないのは、先入観で勝手に判断している部分があると思うのです。だから、まずは実際に公募委員としてやっている人たちの生の意見を集約し、それを地域の方々にフィードバックすることで、もっといい意味で、公募委員の敷居を低くすることが、今回の大きな目標ですので、繰り返しになりますが、あまり難しく考えず、「こんなふうにしたら私も2年間の会議体、楽しくなるよね」みたいなご発言もたくさん出していただいた方がいいと思うので、そんな感じでご発言いただければありがたいです。私が長くしゃべっちゃって申し訳ございません。ほかにご意見、ご質問ございますでしょうか。相田委員、お願いいたします。

【相田委員】私も農業委員で副会長をやりましたところ、充て職として、まちづくり推進会議、総合計画、わたしの提案制度をやっている。「まちづくり推進会議ってどういうことなの」と、最初は戸惑いながら入ってきたけど、知っている人もいるし、これはいい会なのかなと思いつつ、来年の7月まで任期があるので、その後はどうなるか分かりません。や

はり、これをやってみて、まちを良くする推進会議なのかなと。今日は、小菅さんとか金子さんは「宮山の人ですか」と言ったら、「そうです」。宮山に金子というのが多いから、以前の金子さんも顔を知っているようなので、気軽にやれています。

【杉下会長】ありがとうございます。ほかに何かご意見、ご質問ございますか。小菅委員、お願いいたします。

【小菅委員】先ほど橋口さんがおっしゃっていましたが、まだ何となくぎくしゃくしている感じがあるように感じております。提案なのですが、例えば、会長から発言者を指名するときに、〇〇委員と言うのももちろんいいのでしょうけれども、「さん」付けでやられたらどうかなと思います。その方が、肩の荷が下りる気がするのです。皆さんもお互い呼び出す時は「さん」付けでやったらどうかなと思いますが、これは皆さんのご意見で決めてもらえればいいかなと思います。

それともう1つ、次回また会議があつて、この流れで議論が始まると思うのですが、ただ手ぶらで来ても、議論が深まらない、ポイントが絞れないという感じがしてしまっています。可能ならば、このポイントを中心に深めていきたい、あるいはこの方向で議論していきたいというようなことを示してくれると、前もってこちら準備ができるし、もっと議論が深まるような気がしていますので、その辺もひとつご検討いただければありがたいなと思います。以上です。

【杉下会長】ありがとうございます。私としては、大変すばらしいご発言をいただいたのかなと。どうですか。この会議体は今後、私の議事進行がいけなかったというのが全てなのですが、事務局も含め、「さん」付けで統一するというところで。確かに、私も会社で社長というのと、それで気を遣ってしまうこともあるので。上も下もない、同じ目線で物事を考えて議論しましょうということで、「さん」付けにするのも結構あると、私も聞いたことがありますので、いいなと思います。今後、会議は「さん」付けにするということによろしいですか。

(「異議なし」の声あり)

【杉下会長】ありがとうございます。これからは「さん」付けで。私がまず、一番言い間違いそうな気がするのですが、ご指摘いただいて。あともう1つ、今後の会議では、議案を事前に送付させていただくとともに、ぜひともここはポイントとしてご議論いただきたいというのをまとめておきたいと思います。そうすると、会議に臨む時にも、皆さんもご発言やご意見も整理しやすいと思いますので、正副会長と事務局で議案の整理をする中で調整して、次回以降は整理させていただきたいと思います。事務局、お願いします。

【事務局】小菅さん、ありがとうございました。確かに、今回、事務局側からご提示した資料、まとめ方、説明も含め、議論の仕方が少し難しくなってしまったかなと反省しております。次回につきましては、これをこういうふうに決めていただきたいというのが分かるような形で資料を作成したいと考えていますので、よろしく願いいたします。

【杉下会長】吉田さん、お願いします。

【吉田委員】ありがとうございます。ちょうど資料の事でお話が出たので、できれば資料にはページ立てをしていただければ。資料を探している最中に議事が進んで話を集中して聞けなかったところもありましたので。よろしく願いいたします。

【杉下会長】ページをお願いいたします。ほかにご意見、ご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。確認ですが、今後のスケジュールであったように、12月、できれば来年2月含めてご議論いただきますので、次回以降は整理した中で資料を送付させていただきますので、引き続き、この議題についてご議論させていただきたいと思いますが、今日は一度閉じさせていただきます。

それでは、議題の(1)、(2)は終了したということで閉じさせていただきます。続きまして、次第の7番、その他に移ります。(1)、指定管理者選定委員会の委員推薦について、資料5になります。事務局より御説明をお願いいたします。

7. その他

【事務局】-資料5に沿って説明-

【杉下会長】ありがとうございます。指定管理者選定委員会委員は、私が前期もやって、指定管理者の選定の審査で、途中経過というのもあるので、もしよければ、自分で自分を諮るのも変ですけど、推進会議を代表して、引き続き、寒川町指定管理者選定委員会に出向させていただければと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【杉下会長】恐縮ですが、ありがとうございます。こちらで、ご用意させていただいた議題、その他については終了いたしました。事務局から何かありますでしょうか。よろしく願いいたします。

【事務局】次第にはございませんが、2点ほどお知らせさせていただきます。まず、まちづくり懇談会につきまして、前回の会議でお配りした資料では、10月31日(月)を応募期限としておりましたが、事務手続の都合により、10月28日(金)

までとさせていただきますので、ご理解いただきますよう、よろしく願いいたします。ご家族やご友人の方で、ご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひお声がけをいただきますよう、併せてよろしく願いいたします。

次に、みんなの協働事業提案制度のプレゼンテーションにつきまして、お知らせをいたします。こちらの制度は、町民の方からご提案いただいた協働事業に対し、町が経費などを助成する制度となっております。先日郵送させていただきました、プレゼンテーションとは、その制度の活用を希望する協働事業を採択する場となっております。推進会議からは、選考委員として、杉下さん、橋口さん、山下さんにご参加いただきますので、よろしく願いいたします。なお、傍聴が可能となっておりますので、ご興味のある方は10月28日（金）午後1時25分までに、東分庁舎2階 第1、第2会議室にお越しいただければと思います。併せて、よろしく願いいたします。こちらからは以上となります。

【杉下会長】ありがとうございます。参考までに、懇談会は今何名ぐらい応募があるのですか。

【事務局】現在、参加希望者は5名、傍聴希望者が1名来ております。

【杉下会長】まだ余裕があるので、ぜひ声かけをということですね。分かりました。

【事務局】よろしく願いします。

【杉下会長】ありがとうございます。ほかに各委員さんから何かありましたら。金子（巖）さん、お願いいたします。

【金子（巖）委員】ニュアンスで分かるのですが、わたしの提案制度褒賞審査会、協働事業選考委員会、これは大まかにどんなことをやるのか、簡単で結構です。お願いします。

【杉下会長】事務局、お願いします。

【事務局】まず、わたしの提案制度褒賞審査会につきましては、わたしの提案制度という、町民の皆様からご意見をいただく制度があります。そのいただいたご意見の中から、町政に反映できそうな良いご意見を選んでいただくための審査会です。

協働事業選考委員会とは、みんなの協働事業提案制度という、町民の方と町が協力、協働して事業を実施する制度があり、これを提案していただく団体さんがプレゼンテーションを行い、その事業を採択するかどうか、選考基準にかなっているかどうか、審査していただくのが選考委員会になります。

	<p>【杉下会長】 よろしいでしょうか。</p> <p>【金子（巖）委員】 ありがとうございます。</p> <p>【杉下会長】 ほかに委員さんから何かご質問やご確認したいことございましたら。よろしいでしょうか。事務局、どうぞ。</p> <p>（日程調整）</p> <p>【杉下会長】 ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。</p> <p>（各委員、肯定）</p> <p>【杉下会長】 では、全ての議題、その他等が終わりましたので、進行を事務局に戻させていただきたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>【事務局】 本日はお天気が変わりやすく、少し雨が降ったりといった中、お集まりいただきまして、ありがとうございました。ただいま、会長から進行を戻されたのですが、閉会のご挨拶につきましては、橋口さんをお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。</p> <p>8. 閉会</p> <p>【橋口副会長】 皆様、長時間にわたりお疲れ様でした。また次回もどうぞよろしくお願いたします。以上をもちまして、第8期寒川町まちづくり推進会議第2回会議を終了いたします。ありがとうございました。</p> <p>次回会議日程調整 - 12月22日（木）午後3時からに決定 -</p>
<p>配付資料</p>	<p>資料1 第8期寒川町まちづくり推進会議 委員名簿</p> <p>資料2 蕨市「協働」のシンボルマーク・キャッチフレーズ</p> <p>資料3 京都市市民公募委員サロン</p> <p>資料4 今後のスケジュール（案）</p> <p>資料5 寒川町指定管理者選定委員会委員について（依頼）</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>橋口委員、星委員（令和4年11月29日確定）</p>